

中学校国語 ～深谷市立教育研究所～

ア 授業・研究協議の様子



イ 参加者感想

- 古典教材を扱った授業の新しい切り口を見せていただきました。生徒が古典に興味を持ち、他の作品も読んでみたいと思わせる授業だったと思います。今まで、歴史的仮名遣いや現代語訳などに重点を置いてしまいがちでしたが、古典を楽しむということに今後は取り組んでいきたいです。
- 発問の仕方や指示の出し方、プリントの構成など、至るところに細かな気配りを感じました。課題設定の仕方やまとめ・振り返りの仕方など、基本的なことについて悩んでしまう私にとって、大澤先生の授業を見せていただいたことは、とても勉強になりました。
- 絵本の読み比べやグループで課題を見つけての意見交流など、今まで挑戦したことのない手法の授業を見せていただきました。毎年「古文が苦手」、「つまらない」といった、耳をふさぎたくなるような子供達の言葉を聞いていますが、この授業なら、古文を初めて学習する子供達を引き付けられることができると思いました。ジグソー法を用いた読み比べも非常に興味深く、生徒が主体的に取り組めると思いました。
- 自ら学びたい、知りたいと思わせるような授業展開の1つの手法として、学習課題の疑問形等、今すぐに実践できることをたくさん学ばせていただきました。中学校の先生方との協議は、視点が違うところもあり勉強になりました。小中連携を行っていくためにも、このような協議は大切だと思いました。
- やらされるのではなく、やりたい、何でだろうと思わせる課題設定や導入が大切だと感じました。さらに、その気持ちをもとにして自分の考えをまとめ、グループで深め、個に返ってもう一度確かめるという授業の進め方を、自分自身の授業にも生かしていきたいです。本日は生徒が楽しんで授業を行う工夫がたくさんありました。紙芝居や音楽を用いたり、付箋で視覚的に進めたりすることで、学びの質が向上するのだと感じました。

第 1 学年〇組 国語科学習指導案

北部教育事務所

1 単元名・教材名

昔話の真実を探る・「竹取物語」「御伽草子」

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】	学習内容	単元・教材名	学習活動と関連する他領域等の指導
・親しみやすい文語調の文章について内容の大体を知り、音読すること。 ・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	・音読 ・昔の人のものの見方考え方 ・時間の経過による言葉の変化	「日本の文化を考えよう」 ・言葉は時代とともに	○私の大切な一冊

(2) 生徒の実態と本単元の意図

全国学力・学習状況調査によると、中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして、書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得て、それらと比較したり関連付けたりすることなどに課題があることが明らかになっている。

古典の指導については、中央教育審議会答申において、「引き続き、我が国の言語文化に親しみ、愛情を持って享受し、その担い手として、言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため、伝統文化に関する学習を重視することが必要である。」とされ、新学習指導要領においても「伝統的な言語文化」については、「我が国の言語文化に関する事項」として整理された。

「竹取物語」については、「かぐや姫」のお話として、多くの子供たちが知っている話の原典であり、北部教育事務所管内で使われている光村図書及び教育出版の両方の教科書で扱われているものである。

単元の学習の概要は、まず、教科書教材である「竹取物語」の冒頭文を、小さな頃に親しんだ「かぐや姫」のお話と比較する学習を通して、昔話の原典への興味をもたせる。その後、教科書の「竹取物語」について、音読を中心に読み進める。また単元の最後には、3種類の「浦島太郎」を比べて読む活動をとおして、そのルーツとなった「御伽草子」と伝わってきた昔話や親しんできた絵本について考えさせたい。さらには他の昔話とその原典についても興味をもたせたい。

3 埼玉県学力・学習状況調査との関わり

埼玉県学力・学習状況調査は本年度3回目を実施した。本調査の特徴は「学力の伸び」に着目するところであり、児童生徒一人一人の学力の状況応じたきめ細かな指導に資するものである。これまでの調査により、特に中1から中2の伸びに課題があることがわかった。小学校から中学校への学びの接続に課題があることが考えられる。学習内容が系統的につながっていることを踏まえ、小学校までの学習との接続を意識した各教科における指導が大切である。

国語科の指導内容については、特に小学校との接続を意識して指導することは重要である。本単元は就学前も含めた生徒のこれまでの古典との関わりを踏まえた単元である。小学校での学習を踏まえながら、幼少期に触れた絵本の世界と原典となった古典作品とをつなぐ学習単元としたい。

4 「主体的・対話的で深い学び」の視点について

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を考えると、学習活動を見通し、振り返ることができること。また生徒が、主体的に課題に取り組みたいと思えるような学習課題を設定することが大切である。生徒に付けたい国語の力を付けるのにふさわしく、かつ「取り組みたい」と思わせるような、魅力的な学習課題を設定したい。本単元では、これまでの経験から知っている「かぐや姫」のお話と、教科書教材の「竹取物語」との比較をする活動を通して、古典をより身近なものとしてとらえさせたい。

「どのように学ぶか」という学びの過程に着目して、学びの質を高めたい。今回は、昔話とその原典を「比べて読む」という言語活動を位置付けている。単に「場面の展開に着目しよう」とか、「登場人物の描写に注意して読もう」、ということ課題として提示するのではなく、この活動を通して、場面の展開や登場人物の描写に一人一人が主体的に迫るような状況を作り出したい。今回学習したことをきっかけにして、昔話には、原典となる古典作品があることを知ったこと。また広く知られている話とその原典には、違うところがあることを知り、他の古典作品について読んでみようという意欲を育てる。

5 単元の目標

- (1) 古典の内容に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して古典の文章を読み、紹介することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- (3) 歴史的仮名遣い、語句や語彙等、古典を読むための基礎的な事項を身に付けて正確に読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

6 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・ 古典の内容に関心をもち、その内容を進んで紹介しようとしている。	・ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して古典の文章を読み、紹介している。 ・ 歴史的仮名遣い、語句や語彙等、古典を読むための基礎的な事項を身に付けて正確に読んでいる。

学習活動に即した評価規準	①「竹取物語」の内容に関心を持ち、内容を理解しようとしている。 ②古典のリズムに親しみ、進んで音読しようとしている。 ③「浦島太郎」の話を読み比べ、違いを探そうとしている。	①歴史的仮名遣いに注意しながら、音読している。 ②昔話と原典とを比較して、違いについてまとめている。 ③歴史的仮名遣い、語句や語彙等の基礎知識を身に付けて、古文を正確に読んでいる。
--------------	--	--

7 指導と評価の計画

時	学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1 本時①	○単元の見通しをもつ ○「竹取物語」のあらすじをつかむ。 ○「竹取物語」の冒頭と絵本を比べて違いを探す。 ○違いについて文章にまとめる。	・歴史的仮名遣い「ゐ」「ゑ」等 ・「竹取物語」のあらすじ ・冒頭と絵本の違い	アー①、オー② 学習の様子を観察 まとめた文章の考察
2	○「竹取物語」の冒頭の範読を聞く ○現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いを理解しながら「竹取物語」冒頭部分を音読する。	・歴史的仮名遣い ・古文のリズム ・古典の言葉	アー②、オー① 学習の様子を観察
3	○「竹取物語」かぐや姫の昇天ほかの部分を読む	・歴史的仮名遣い ・古文のリズム ・古典の言葉	アー②、オー① 学習の様子を観察 ワークシートの考察
4 本時②	○分担した絵本の浦島太郎について、読み比べて違いについてまとめる。 ○それぞれの違いについて文章にまとめる。	・御伽草子と昔話の違い ・古人のものの見方考え方	アー③、オー② 学習の様子を観察 ワークシートの考察

8 本時の学習指導（本時1 / 4） 【展開例①】

(1) 目標

- ・「竹取物語」の内容に関心をもち、内容を理解しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・口語訳を参考にしながら、絵本の「かぐや姫」と「竹取物語」の違いについて文章にまとめることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 本時の展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
<p>1 昔話の「かぐや姫」について、知っていることを発表する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居のかぐや姫の読み聞かせをすることで確認する。 ・原典である「竹取物語」を学習することを知らせる。
<p>昔話の「かぐや姫」と「竹取物語」の違いは何だろうか。</p>		
<p>3 竹取物語の冒頭部分を音読し、口語訳を参考にしてあらすじをとらえる。</p> <p>4 口語訳を参考にし、昔話の「かぐや姫」と「竹取物語」の違いを探す。【個人】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的仮名遣い ○古語の意味 ○冒頭部分の内容 ○「竹取物語」と「かぐや姫」との違い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんは「さぬきの造」という名前 ・おじいさんは、竹を切っていない ・筒の中が光っていた ・3寸(9cm)くらいの大きさだった ・3ヶ月で大人くらいの大きさに成長した </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名遣いや古語についての解説は最低限にとどめ内容をつかむことに重点を置く。
<p>5 それぞれが探した違いについてグループで話し合う。【グループ】</p> <p>6 グループで話し合った違いを発表する。【全体で共有】</p> <p>7 探した違いについて文章にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章にまとめるポイント ①探した「違い」 ②自分の考え 違いについて感じたこと、考えたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供した絵本以外に、自分が知っている話との違いに触れられるとよいことを助言する。 ・ホワイトボードを用意し、特に取り上げたい違いについて書かせ全体で共有する。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>(例) おじいさんは、「さぬきの造」という名前であることが分かりました。竹取物語では、おじいさんが竹を切ったということが書かれていません。また大きさが9cmくらいだったこと、3ヶ月で大人の大きさになったことが分かりました。違うことがたくさんあり、他の作品についても調べてみたくなりました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>評価場面</p> <p>〈学習活動に即した評価規準〉 アの① オの②</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた文章の考察 </div>		

7 本時の学習の振り返りをして、単元の学習の見通しをもつ。

振り返りの観点

- ・「かぐや姫」と「竹取物語」の違いについて、自分の感想や考えをまとめることができたか。
- ・他の作品についても調べてみたいという意欲をもてたか。

昔話の真実を探る―竹取物語―

課題

「かぐや姫」と「竹取物語」の違いは、何だろうか。

歴史的仮名遣い

古語の意味

○かぐや姫との違い

班ごとにまとめた

ホワイトボードをはる。

○文章にまとめるポイント

- ・探した違いについて
- ・違いについての考えや感想
- ・百五十字程度

まとめ(例)

おじいさんは、さぬきの造という名前だとかかりました。竹取物語では、おじいさんが竹を切ったと言うことが書かれていません。また、大きさが9センチメートルくらいだったこと、3ヶ月で大人の大きさになったことがわかりました。違いがたくさんあり、他の作品についても調べてみたいと思いました。

8 本時の学習指導（本時4／4）【展開例②】

(1) 目標

- ・「浦島太郎」の話を読み比べ、違いを探そうとしている。

(関心・意欲・態度)

- ・複数の浦島太郎の話を読み比べ、違いについて文章にまとめている。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 本時の展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
<p>1 「浦島太郎」について知っていることを確認する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>		<p>・文部省唱歌の「浦島太郎」の歌詞を確認する。</p>
<p>3種類の浦島太郎の話には、どのような違いがあるだろうか。</p>		
<p>3 分担をして、それぞれが浦島太郎A、B、Cを読み、観点に従って、付せんにまとめる 【個人】</p> <p>4 A、B、Cを選んだ者同士でグループを組み、個人の活動について、確認する。 【グループ1】</p> <p>5 もとのグループに戻り、表を完成させる。 【グループ2】 完成した表をもとに、ABCの違いについて交流する。</p>	<p>○3つの浦島太郎の違い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・読み比べの観点</p> <p>①太郎の職業・家族</p> <p>②亀を助けたときの様子</p> <p>③帰ってきたときの様子</p> </div> <p>Aの特徴</p> <p>①漁師・両親がいる</p> <p>②亀を釣り上げる。殺すのはかわいそうと思い逃がしてやる。</p> <p>③七〇〇年たっている。</p> <p>太郎は鶴になる。亀になった乙姫と夫婦の神様になる。</p> <p>Bの特徴</p> <p>①漁師・お母さんがいる</p> <p>②子供が亀をいじめている。</p> <p>亀をお金で買って逃がす。</p> <p>③三〇〇年たっている。最後は太郎がおじいさんになってしまう。</p> <p>Cの特徴</p> <p>①長者の息子、釣り好き</p> <p>②子供が亀をいじめている。</p> <p>亀をお金で買ってにがす。</p> <p>③三〇〇年たっている。</p> <p>太郎がおじいさんになった後、鶴になる。おとひめが亀になって夫婦に</p>	<p>3種類の内訳</p> <p>A 御伽草子</p> <p>B 子供向けの絵本</p> <p>C 一般向けの絵本</p> <p>・マーカーで該当する場所をチェックしてから付せんにまとめさせる。</p> <p>・ABCがそれぞれ、どの本なのかを知らせる。</p> <p>Aが原典である御伽草子であることを知り、原典と絵本の比較という観点で考えさせる。</p>

<p>6 御伽草子と絵本の違いについて、文章にまとめる。</p>	<p>なる。 ○文章にまとめるポイント ・「御伽草子」と「絵本」との違い ・違いについての自分の考え</p>	<p>評価場面 〈学習活動に即した評価規準〉 アの③ オの③ 〈評価方法〉 ・まとめた文章の考察</p> <p>★この話合いは、発展課題であり、意見があれば取り上げ、出なければ教師が解説する。</p>
<p>(例) 御伽草子では、浦島太郎は漁師で、いじめられた亀を助けたわけではなく、自分で釣り上げた亀を逃がしてやったことがわかりました。また、おじいさんになって終わりだと思っていたのですが、その後には鶴になるという結末でした。これまで知っていた話と違うところがあったので、ほかの作品についても調べてみたいと思いました。</p>		
<p>7 同じ話なのに、なぜ違いがあるのかをグループで話し合う。</p>	<p>想定される答え ・本を読む対象にあわせて変えた。 ・語り継がれるうちに変化した。</p>	
<p>8 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>振り返りの観点 ・3種類の浦島太郎の違いについてまとめることができたか。 ・他の作品についても調べてみたいという意欲をもてたか。</p>	

<p>まとめ(例) 御伽草子では、浦島太郎は漁師で、いじめられた亀を助けたわけではなく、自分で釣り上げた亀を逃がしてやったことがわかりました。また、おじいさんになって終わりだと思っていたのですが、その後には鶴になるという結末でした。これまで知っていた話と違うところがあったので、ほかの作品についても調べてみたいと思いました。</p>	<p>○文章にまとめるポイント ・違いについて ・違いについての考えや感想 ・百五十字程度</p>	<p>昔話の真実を探る―竹取物語― 課題 三つの浦島太郎には、 どのような違いがあるだろうか。 A 職業 助けた 帰ってきた B C</p>
--	---	--